

平成26年11月28日

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上河内 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	71人	国語B	71人
② 数学A	70人	数学B	70人

5 留意事項

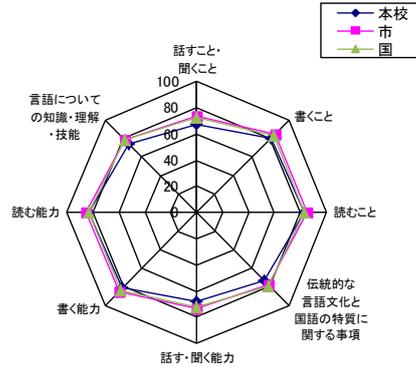
- (1) 本調査は、対象となる学年に限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることを留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

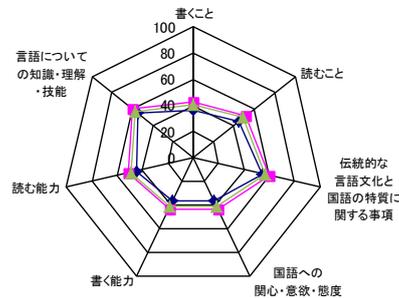
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	67.6	73.4	72.3
	書くこと	80.8	84.9	83.4
	読むこと	83.4	84.8	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.6	78.5	78.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	67.6	73.4	72.3
	書く能力	80.8	84.9	83.4
	読む能力	83.4	84.8	82.9
	言語についての知識・理解・技能	73.6	78.5	78.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	36.2	43.0	41.0
	読むこと	45.4	51.9	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	54.6	59.7	56.8
観点	国語への関心・意欲・態度	36.2	43.0	41.0
	話す・聞く能力			
	書く能力	36.2	43.0	41.0
	読む能力	45.4	51.9	49.2
	言語についての知識・理解・技能	54.6	59.7	56.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○国語に関する大方の質問において、肯定的な回答は全国および市の平均を上回っており、国語を学ぶ意欲が高い。特に「国語の勉強が好き」の肯定的回答は、全国平均より22.3ポイント、市の平均より13.7ポイント高い。「国語の勉強は大切」「国語で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ」など、必要性について肯定的に回答している生徒も、全国と比較すると上回っている。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

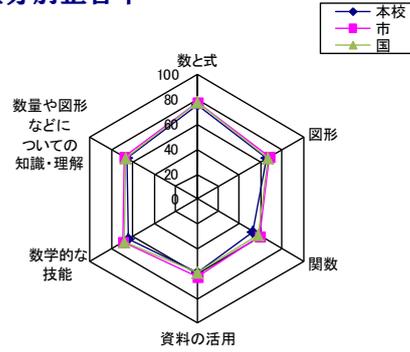
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●国語Aの領域の平均正答率は67.6%で全国平均より4.7ポイント低い。 ○必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す設問の正答率は84.5%で全国平均より4.2ポイント高い。 ●話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす設問の正答率は60.6%で全国平均より15.4ポイント低く、無回答率も4.2%と高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する設問や話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす設問の無回答率が高かった。このことから話し合いやプレゼンテーション、パネルディスカッションなどを通して、説得力のある話し方や考えを深める聞き方について確認を行っていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●国語A領域の平均正答率は80.8%で全国平均より2.6ポイント低い。国語Bの領域平均正答率は36.2%で全国平均より4.8ポイント低い。 ○国語Aの叙述の仕方などを確かめて適切に置き換える設問の正答率は85.9%で全国平均より5.4ポイント高い。主語を置き換えて書き直すことに一定の成果が見られる。 ●資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く設問の正答率は21.1%で全国平均より7.3ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Aの語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える設問の無回答率は15.5%で全国平均より6.3ポイントも高い。説得力のある文章を書いたり、読書感想文を書いたり、資料を通して事実を読み取りそれを説明する文章を書くなど、さまざまな文章を書かせる場面を設定し、語彙力を増やしていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○国語Aの領域の平均正答率は83.4%で全国平均より0.5ポイント高い。 ●国語Bの領域の平均正答率は45.4%で全国平均より3.8ポイント低い。 ○登場人物の言動を意味を考え、内容を理解する設問の正答率は81.7%で全国平均より2.6ポイント高い。登場人物の心情を捉えることに一定の成果が見られる。 ●国語Bの落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する設問の正答率は59.2%で全国平均より8.0ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章や説明的な文章はもとより、古典的文章にもより親しんでもらうために、落語や日本の伝統芸能をさまざまな場面で紹介していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●国語Aの領域の平均正答率は73.6%で全国平均より5.1ポイント低い。 ●国語Bの領域の平均正答率は54.6%で全国平均より0.2ポイント低い。 ●特に、国語Aの漢字の書きに関する3問の平均正答率は49.3%で、全国平均より14.3%低い。文脈に即して漢字を正しく書くことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の確実な定着を図るためには、熟語を繰り返し書かせることが必要である。朝の学習や家庭学習などを通して繰り返し書かせる指導を行っていく。また漢字テストなどの演習問題を定期的に行い、漢字の読み書きが正しく身についているかどうか確認をしていく。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

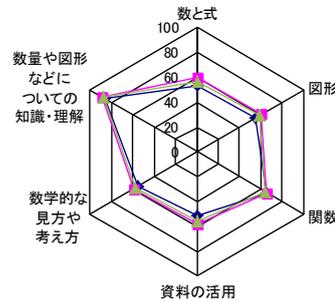
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	75.5	78.0	77.4
	図形	65.7	67.8	66.4
	関数	52.9	59.3	58.0
	資料の活用	58.6	62.2	59.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	64.3	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	66.1	68.2	66.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	52.9	59.8	56.9
	図形	54.6	60.3	58.6
	関数	65.7	65.5	64.4
	資料の活用	51.4	57.5	55.9
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	55.5	59.6	57.9
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解	85.7	88.4	87.5



★数学に関する質問紙調査の状況

○ほとんどの質問で、肯定的な回答が全国の平均を上回っている。とくに、「数学の勉強は大切だと思う」は91.7ポイントで、全国より9.6ポイント高い。「学習したことを生活の中で活用できないか考える」という質問に対する肯定的な回答は19.6ポイント、「社会に出たときに役立つと思う」は14.3ポイント全国平均より高い。数学を学ぶ意欲が高く、前向きに学習している生徒が多いと言える。

○良好なもの ●課題が見られるもの

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○分数の除法、正負の数の意味、単項式同士の除法、数量を文字式で表す、等式の性質と移行、連立方程式をつくる等の問題では、全国平均を上回っている。特に式の値を求める問題では、全国平均より6ポイント高い。 ●指数を含む正負の数の計算は16.4ポイント、数量の関係を不等式に表す問題は13.8ポイント全国平均より低い。分数を含む1元1次方程式、連立方程式を解く問題の正答率も全国を下回っている。活用問題の正答率は全国より4ポイント低い。	・計算の手順を丁寧に復習させ、計算問題に取り組みさせる時間を多くもち、習熟を図っていききたい。 ・数学的な見方や考え方を必要とする問題にも十分対応できるように、今後も発展的な内容にも取り組ませていきたい。
図形	○図形の回転移動について辺や角の対応を読み取る問題の正答率は4.6ポイント、空間における直線と平面の位置関係を答える問題は10.4ポイント全国平均より高い。 ●線対称な図形の完成、円錐の展開図において側面のおうぎ形の半径を読み取る、証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ問題の正答率は全国平均を下回っている。 ●活用問題の平均正答率は、全国平均より4.0ポイント低い。	・3年生で「相似」や「円」について学習する前に、図形の用語の意味、面積や体積を求めること、定義や定理、証明の考え方などを、もう一度復習する機会をもち、定着を図りたい。
関数	○反比例の性質を問う問題の正答率は全国平均を上回っている。 ○関数の活用問題の平均正答率は全国平均をやや上回っている。 ●比例の式を求める問題は15.3ポイント、反比例のグラフから表を選ぶ問題は10ポイント、1次関数の変化の割合に関する問題は7.3ポイント全国平均より低い。	・比例・反比例、1次関数の意味や、表、式、グラフの関係を理解できていない生徒が多いので、繰り返し丁寧に指導し、関係を理解させたい。 ・身の回りの事象を関数的にとらえ、それを利用できるような問題に取り組ませていきたい。
資料の活用	○相対度数、中央値、確率の意味に関する問題の正答率はやや全国平均を上回っている。 ●樹形図を利用して確率を求める問題の正答率は全国平均より8ポイント低い。 ●活用問題の平均正答率は、全国平均より4.5ポイント低い。	・表や樹形図を活用して場合の数を求め、それをもとにして確率を求めることを繰り返し復習していききたい。

宇都宮市立上河内中学校第3学年生徒質問紙調査

調査結果

※「学校教育スタンダード」の到達目標と直接的・間接的に関連のあるもの

及び宇都宮市の平均が全国平均と10ポイント以上差のあるものを取り上げた。

	主な質問と回答内容	本校	宇都宮市	全国平均
1	「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」⇒「(どちらかといえば、) そう思う」	75.0%	69.8%	61.9%
2	「1、2年生のときに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか。」⇒「(どちらかといえば、) 当てはまる」	87.5%	61.5%	46.5%
3	「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」⇒「(どちらかといえば、) 当てはまる」	79.2%	69.6%	54.8%
4	「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(塾や家庭教師を含む)。」⇒「2時間以上」	23.6%	36.0%	35.1%
5	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」⇒「(どちらかといえば、) している」	58.3%	52.4%	46.6%
6	「家で、学校の授業の復習をしていますか。」⇒「(どちらかといえば、) している」	56.9%	59.2%	50.4%
7	「新聞を読んでいますか。」⇒「週に1～3回程度以上」	12.5%	23.0%	21.1%
8	「学校の規則を守っていますか。」⇒「(どちらかといえば、) 当てはまる」	93.0%	93.6%	93.0%
9	「はじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」⇒「(どちらかといえば、) そう思う」	88.9%	95.6%	93.4%
10	「自分には、よいところがあると思いますか。」⇒「(どちらかといえば、) 当てはまる」	59.7%	74.9%	67.1%
11	「先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか。」⇒「(どちらかといえば、) 当てはまる」	66.7%	79.6%	74.1%
12	「将来の夢や目標を持っていますか。」⇒「(どちらかといえば、) 当てはまる」	75.0%	76.5%	71.4%
13	「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。」⇒「(どちらかといえば、) 当てはまる」	69.6%	66.5%	55.6%
14	「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。」⇒「(どちらかといえば、) 当てはまる」	48.7%	43.3%	31.2%
15	「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか。」⇒「1時間未満」	41.7%	48.2%	43.5%
16	「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)。」⇒「1時間未満・持っていない」	59.7%	57.7%	52.0%
17	「朝食を毎日食べていますか。」⇒「(どちらかといえば、) 当てはまる」	97.2%	96.0%	93.5%
18	「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」⇒「(どちらかといえば、) している」	83.4%	92.7%	92.1%

傾向

○…良好なもの ●…課題が見られるもの

○No.1、2の肯定的回答率は、全国平均、宇都宮市の平均より上回っている。「表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業」を研究テーマに掲げ、校内授業公開や授業研究会を実施してきたことの成果が表れているのかもしれない。ただし、深める、広めるという点では、課題は多々ある。研究テーマを基に、継続して授業を展開していきたい。

○No.2、3の肯定的回答率は、全国平均、宇都宮市の平均より、上回り方が大きい。総合的な学習の時間を中心に、探究的な学習を展開し、調べ学習や発表活動への取り組みを今後も継続し、発表の質の向上を図りたい。

●No.4の家庭での学習時間についての肯定的回答率は23.6%で、全国平均、宇都宮市平均よりも10ポイント以上下回った。学校全体で自主学習ノートの活用、提出を実施しているが、家庭学習の習慣と、学年に応じた学習時間の定着に課題がある。今年度、学力向上アドバイザーの派遣があり、12月に家庭学習についての講話を予定している。

●No.7の肯定的回答率は12.5%と低く、全国平均、宇都宮市平均を大きく下回っている。各教科や総合的な学習の時間、特別活動等でも新聞を活用する機会を増やすことにより、社会で起こっている問題や出来事への関心を持たせ、新聞を読むきっかけとさせたい。

●No.10、11の肯定的回答率は、全国平均、宇都宮市平均を大きく下回っている。係活動等学級集団への役割の遂行や貢献から役立ち感を味わわせたり、教師自らが多様な考えや新たな見方や考え方を受け入れたりするとともに、長所や努力している姿を積極的に探し伝えることを意識したい。

○No.14は50%に達していないものの、No.13、14の肯定的回答率は、全国平均、宇都宮市平均を上回っている。生徒の地域行事への参加率は多い。成長とともに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えられるようにさせたい。

●No.15、18の肯定的回答率は、全国平均、宇都宮市平均を下回っている。ゲームやインターネットの時間と、不適切な睡眠習慣は、学力や運動能力にも影響するとの指摘も。中高生の生活習慣づくりは、家庭で行われることが基本である。個別指導等を加えながら支援体制を作りたい。